



株式会社 ファルマ

弘前市北横町 19-1  
Tel 0172-37-6016(代)

発行：編集委員会  
印刷：小野印刷

■ 第 200 号 ■

## 原水爆禁止世界大会 in 長崎 「身になることばかりだった3日間」

ファルマ弘前薬局 古川 碧人

8月7日(木)から9日(土)までの3日間、原水爆禁止2025年世界大会の長崎大会に参加しました。

大会に参加することで、核兵器の実態、また原発がもたらす環境への影響など、多くのことを学ぶ機会となりました。そして原爆が落とされた唯一の国として平和に向かつて核の廃絶を呼びかける



青森県の参加者の皆さんと

発して核燃料がもたらす環境への大きな影響についての講義をお聞きしました。午前のプログラムである武本匡弘氏の「海から見た地球気候危機・生物多様性の危機・プラスチック汚染平和の危機」では原爆はどれほど環境への悪影響が起ころかを強く訴えていました。武本氏は温度の高い原発の処理水が海に流されることで水温が上昇し生態系のバランスが崩れることを危険視していました。講演の資料の中には過去に青く美しかった海が現在ではサンゴ礁が死滅し灰色一色となってしまう写真が載っており、今日の原発が取り巻く環境の変化に自分でも危機感を覚えました。

分科会の終了後に向かった原爆資料館では被爆物や被爆者の症状、爆弾の構造やその爆発規模について閲覧することができました。特に展示されていた被爆物などは、いびつに変形したものや人の形跡などがあり、その場で起ったことの悲惨さを物語っていました。

3日目は原水爆禁止2025年世界大会の特別プログラムであるナガサキデー集会に参加しました。開催会場である長崎市民体育館は開催時には会場が国内外問わず多くの人であふれており、この大会に注目を集めている人の多さ、そして注目度の高さに驚きました。集会ではゲストの方が会場またはZoomで本大会への意気込みを語っており、この大会の意義を強く理解することができました。

今回、原水爆禁止世界大会に参加したことでも今までは知らなかった原爆の悲惨さ、そして現在の情勢の悪化によりその悲惨さが繰り返されようと感じる恐ろしさを身近に感じました。自分自身として

## 原水爆禁止2025年

### 世界大会弘前地区合同壮行会

本部 課長補佐 工藤 由希子



2年前長崎の世界大会に参加した三上さんより折り鶴を贈呈

も唯一の被爆国である日本の国民として核兵器の拒絶、戦争のない平和な世界の実現を訴えていき

たいと考えることのできた3日間でした。



ファルマ全員で作製した折り鶴を納めました

# 原発反対の連帯感

黒石薬局 薬剤師 成田 創

7月27日(日)に青森県大間町で開催された「大間原発反対現地集会(第17回)」に参加しました。この集会は原発敷地に隣接した「大間原発に反対する地主の会」の土地で行われ、多くの反対派の参加者とスピーチがあり、その後にパレードがありました。

「反核ロックフェス」大MAGROCK」は、集会の前日から開催され、音楽とともに反対の声を上げる場に。集会当日にはロックバンドやスピーチも行われました。



若手薬剤師で参加してきました!

地元住民や全国から駆けつけた活動家らが登壇。住職の中嶋哲演さんや行政経験者、諸団体代表などによる訴え、集会後は会場入口から大間町役場、商店街、フェリー埠頭まで、「大間原発反対」「命を守るろ」といったシュプレヒコールを唱えながら進むパレードに参加しました。



マグロを背負ってパレード中

## 学習会「ヒロシマ・ナガサキ被爆の実相」

ファルマ弘前薬局 中西 茉季

今年、被爆から80年という大きな節目を迎えました。長久啓太さんのお話を通して、ヒロシマ・ナガサキで実際に何が起こったのか、その「実相」に深く触れることができました。焼けただれた街、命を奪われた人々、そして今もなお後遺症や差別に苦しむ被爆者の方々。あらためて「知るだけでは足りない」と感じました。

原爆は一瞬で多くの命を奪い、生き残った人々にも、放射線の後遺症や差別など、長く苦しい影響を与えました。

時間が経っても、原爆がもたらした苦しみや不条理は、今も生きる私たちが受け止めるべき課題だと思えます。戦争や原爆の記憶は、



ファルマ弘前薬局での学習会の様子

## ケアの倫理と実践の大切さ

本部 課長 鈴木 健仁

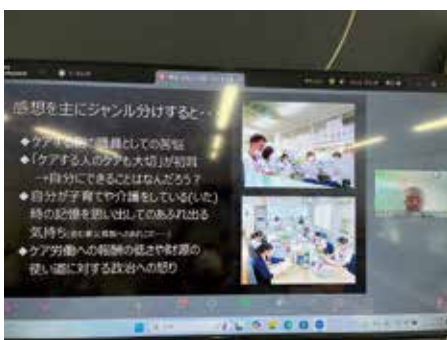
7月9日(水)全日本民医連が開催するケアの倫理Caféオンライン交流集会に参加しました。前半は、各県連の実践報告として、青森、群馬、奈良からこれまでの取り組み

の報告がありました。青森からは県連教育委員会の佐々木委員長の報告がありました。各県連の報告を聞くと、事業所によって進んでいるところとそうでない所があるようです。青森は全国的にみても進んでいると感じました。後半は地協毎に5人程度のグループに分かれて意見交換をしましたが、私のところは、青森から3人、北海道から1人とな

り、ほぼ青森の話が中心となったこと、かなり時間が限定されていたため、あまり交流はできなかった印象でした。

全体でみると気になる報告はいくつかありました。尼崎医療生協からの「耳から届くケアの倫理の実践」は、「ケアの倫理Café」を読むのではなく、読み聞かせの形式にしたそうです。ただ耳で聞くだけ、発言の強制、リアクションの義務はなく、聞くだけなので安心して聞けることが

良かったとの報告でした。考えもつかなかったことで、このような全国の交流会に参加することの大切さを改めて実感した交流会でした。



ZOOMで開催されました

### 写真紹介

#### 8/1 ファルマ弘前薬局健康教室

8月1日(金)ファルマ弘前薬局待合室で健康教室を開催しました。

外崎薬剤師が「夏の暑さに負けないために」、中西さんが「夏のちょこっと体操」、田中薬剤師が「毎日の骨々〜健康寿命を延ばそう〜」をテーマに講義を行いました。

その他、もの忘れチェックや骨密度計などの健康チェックコーナーや健康食品の販売を行い、とてもにぎわいのある健康教室でした。



中西さんは楽しく参加者の皆さんと運動を



講師を務めた外崎薬剤師

#### 8/1 ファルマ弘前薬局消防訓練

8月1日(金)にファルマ弘前薬局で消防訓練を行い、避難訓練の他、水消火器を使用した消火訓練も行いました。

初めて訓練に参加した職員は少し緊張した様子でしたが、真剣に取り組んでいました。



水消火器で消火器の使い方を学びました

# 薬と向き合う「民医連薬剤師」

ファルマ弘前薬局 薬剤師 猪股 愛恵

7月5日(土) 青森民医連薬剤師1年目研修に参加し、「民医連の薬剤師として薬剤とどう向き合うか」という講義を受けました。

SDHや薬価の仕組み、薬害(デイオバン事件)などの話を通じて、薬がもつ「効用」と「利潤追求の道具」という二面性について考えさせられ、とても興味深かったです。

その後の入職3ヶ月の振り返りトークでは、先輩薬剤師に質問したり、できる

ようになったことを共有したりして、不安が少し和らぎ、今後の励みになりました。



真剣に研修に参加中の猪股薬剤師(奥左)と下山薬剤師(奥左から2人目)

# 成長できた実務実習

青森大学 5年 山本 瑚々

ファルマ弘前薬局、弘前調剤センターでの実習を通して、外来の患者様だけでなく施設や在宅業務を通して皆さんの患者様と関わらせていただきました。

実習前半の服薬指導では、最低限説明しなければならぬことを伝えるので、一杯になり、対人業務の



健康教室で参加者の方に機械の使い方を説明中の山本さん(中央)

# 高齢者の感覚を体感できた「高齢者疑似体験」

ファルマ弘前薬局 古川 碧人

7月23日(水)、青森県総合社会教育センターで開催された県連2025年度事務基礎研修に参加しました。

午前の研修では第一講座の『情勢を知る』や第二講座『地域に根差した医療活動を知る』など座学がメインの研修を行いました。

午後の研修では第3講座の『介護講座』や第4講座の『先輩の経験から学ぶ』など実技での演習や先輩の経験談を聴くことができました。特に自分が興味をもった

介護講座の「高齢者疑似体験」では様々な器具によって行動を制限することにより視界が狭まることや関節が曲がりにくくなるなどが体験でき、高齢者の感覚を少しでも体感することができたと感じました。



高齢者疑似体験で杖をつきながら階段を昇っている古川さん(右)

また、講座が終わったのちに参加者で各々の職場のことを話し合う交流会を行い、自分とは違う職場で働いている方々の話を聴くことで事務職員と種類があることを知ることができました。

## 写真紹介

### 7/21 りんご広場集会和パレード

7月21日(月) 弘前駅前りんご広場で憲法9条守れ、戦争法廃止! 集会和パレードが行われました。

とても暑い中ではありましたが、ファルマからは3名が参加し、元気にパレードを行いました。



暑い中参加しました!

### 7/4 東部地域 包括支援センターへ出前講座

7月4日(金) 弘前東部児童センターで東部地域包括支援センター主催の出張出前講座が開催されました。

講師は取締役薬剤師部長・ファルマ弘前薬局の相馬薬局長でテーマは「薬について」「薬局・薬剤師について」でした。20名の参加者の方からは多くの質問がありました。



多くの方が参加されました

### 7/9 栄町栄耀会へ出前講座

7月9日(水) 青森市浪岡栄町集会所で栄町栄耀会主催の出張出前講座が開催され、ファルマ浪岡薬局の高橋薬局長が「薬の正しい飲み方とサプリメントについて」をテーマに話しました。

質問が多く飛び交い、とても活発な出前講座となりました。



活発に質問が出されました

写真紹介

7/15 津軽保健生協  
黒石支部へ出前講座

7月15日(火) 健生黒石診療所で津軽保健生協黒石支部主催の出張出前講座が開催されました。講師は黒石薬局の成田薬剤師で、「過活動膀胱、尿漏れについて」をテーマに講義しました。参加された6名は身近なこととして真剣に聞いてくださいました。



真剣にお話を聞いてくれました

7/26 津軽保健生協会館で  
出前講座

7月26日(土) 津軽保健生協会館で津軽保健生協社会保障平和委員会と新日本婦人の会弘前支部共催の出張出前講座が開催されました。「医療制度崩壊はどこまで進む? ~国保を例に~」をテーマに高松相談役が講師を務め、28名の参加者へ丁寧にわかりやすくお伝えしました。



多くの方が参加してくれました

7/28、29 五所川原市  
社会福祉協議会へ出前講座

7月28日(月)と29日(火)に五所川原市社会福祉協議会主催の出張出前講座が開催され、「認知症とお薬、熱中症、脱水と水分補給について」をテーマにファルマ一ツ谷薬局の安田薬剤師(28日)、福井薬剤師(29日)が担当しました。



講義中の安田薬剤師



参加者に説明中の福井薬剤師

7/30 西北五地区社会保障  
推進協議会へ出前講座

7月30日(水) 五所川原市民学習情報センターで西北五地区社会保障推進協議会主催の出出張出前講座が開催されました。高松相談役が「国民健康保険制度学習会・高額療養費制度について」をテーマに話され、参加者からは「OTC類似薬の保険が外されると経済負担増になるのではないかと」と質問がありました。



講師を担当した高松相談役

8/8 黒石市立東公民館へ  
出前講座

8月8日(金) 黒石市立東公民館で出張出前講座が開催され、黒石薬局の吉田薬剤師が「ジェネリック薬品のはなし」「元気で長生きするために」をテーマに講義を行いました。参加者は12名で、とてもわかりやすかったと好評でした。



参加者から大好評でした

8/10 東部仲町町会へ  
出前講座

8月10日(日) 弘前市社会福祉センターで「2025東部仲町まつり」の学習会として、居宅介護支援事業所ファルマの伊勢主任が「介護保険制度の現状と課題」について講演を行いました。健生病院小児科の加村先生も「子どもの発達障害」について話され、多くの参加者が熱心に聴いていました。



介護保険制度について講義しました

17才のわたし

ファルマ弘前薬局 薬剤師 猪股 愛恵

高校3年生の私は、とにかく大変な時期で、今振り返ってみると目まぐるしい生活を送っていたなと思います。聖愛高校では2年生から看護学部に入り、理数系の科目に力を入れて勉強していました。周りの友人も看護師や教師など将来の夢は様々で、それでも卒業までの2年間、同じ仲間と共に過ごせたのは本当に楽しかったです。

部活動はソフトボール部に所属していて、当時は強豪校だったこともあり、特待生と比べて一般で入部した私にとって、とてもハードなメニューがてんこ盛りで慣れるのに時間がかかったことを覚えています。週末は県外への遠征や練習試合が多く、平日も練習が長引くことがあり、帰宅が21時を過ぎる日も珍しくありませんでした。クタクタになって家に帰ってから、薬学部を受けるための勉強をするのはとても大変でしたが、放課後に先生と一緒に居残り勉強をし、目標に向かって頑張る日々は充実していました。

そんな忙しい毎日の中で、同じクラスだけど部活が異なる友人たちと5人組でつるんでいて、それが私にとって大きな支えでした。昼休みに一緒にご飯を食べたり、一緒にディズニーなどの旅行に行ったり

とたくさんの思い出も作れたし、今でも心の支えになっています。

17歳の私は、1人では無理だった文武両道を家族や先生、友人に助けられながら、薬剤師という夢に向かってひたむきに努力していました。国家試験の時、体調などを心配してくれたのもまたその友人たちだったので、この縁を大事にしていきたいです。



大切な仲間と(中央が猪股さん)